

「EFTR & C におけるMicro-ring法の有用性」

昭和大学江東豊洲病院 消化器センター

井澤 晋也、井上 晴洋、藤吉 祐輔、篠原 浩樹、坂口 琢紀、島村 勇人、木村 隆輔、池田 晴夫、
鬼丸 学

【背景】

内視鏡的治療法は内視鏡的粘膜切除術(endoscopic mucosal resection:EMR)や内視鏡的粘膜下層剥離術(endoscopic submucosal dissection:ESD)の発展と普及により、治療法が拡大されてきている。また近年内視鏡で全層切除する内視鏡的全層切除術(endoscopic full-thickness resection:EFTR)へと治療法が拡大され、その縫合も重要視されている。

術後縫合については術者により縫合時間、合併症(縫合不全)に差がでることもある。

また、粘膜欠損が広く通常の方法では閉鎖が困難な症例もしばしばみられる。

そこで Micro-ring 法は誰でも簡単に、安価で、効果的な Stay suture として考案された。

(Quarta Colosso B.M., Inoue H. et al., Video GIE 2019)

【方法・結果】

対象は 2019 年 11 月まで当院にてアカラシア治療を目的とし POEM を施行した 3 例

使用器具は QuickClip Pro, HX-202UR(オリンパス)、Coated Vicryl 4-0 を使用した。

Micro-ring 法はクリップの片方に 4-0Vicryl を括り付け小さい輪(micro-ring)を作成。粘膜欠損部にクリップした後、2 ケ目のクリップを輪に通し、体側の粘膜をクリッピングし縫縮する。

全例とも簡便で容易に粘膜欠損の閉鎖ができた。

Micro-ring 法の作成方法等の手技については動画にて供覧する。

【結論】

Micro-ring 法は、時間や追加費用なしで、シンプルなツールで簡単に大きな粘膜欠損を閉鎖する際の Stay suture として有用である。